



2018年度 帰国報告書

海洋国立大学

Морской Государственный Университет
имени адмирала Г.Н.Невельского

宮本 匡

1. 年間業務日程

前 期	
2018 年 9 月	着任・前期授業開始（国際部有料講座）
10 月	極東・東シベリア日本語弁論大会、教師セミナー
	アルチョーム市日本文化紹介イベント
	1 学期期末試験（リツエイ）
11 月	【文化交流】ピロシキ料理教室（会話クラブ）
	ジャパン・フェスティバル
	ウラジオストク日本語教師サークル勉強会（国際文化フォーラム）
12 月	ウラジオストク日本語教師サークル定例会・懇親会
	2 学期期末試験（リツエイ）
2019 年 1 月	賀詞交換会
	前期定期試験（国際部有料講座）
	日本語ガイド講座実施（3 月 31 日まで 6 回。於：日本センター）
	【文化交流】旧正月の集い（国際部有料講座）
後 期	
2019 年 2 月	後期授業開始（海洋学部 1 年生・国際部有料講座）
	【文化体験】豆まき（リツエイ）
	スキー教室（リツエイ）
	【文化体験】書道講座（リツエイ・海洋学部 1 年生・国際部有料講座）
	【文化交流】国際アイスラン日本語ボランティア（会話クラブ）
	【文化交流】東京学芸大学大学院生特別授業（リツエイ）
3 月	文部科学省国費留学生（日研生）試験 面接官
	震災学習（海洋学部 1 年生・国際部有料講座・会話クラブ）
	【文化交流】富山県立伏木高等学校ロシア語学研修（リツエイ）
	3 学期期末試験（リツエイ）
4 月	日本センター日本語スピーチコンテスト
	シベリア地域日本語弁論大会、教師セミナー
5 月	クラス対抗合唱コンクール（海洋学部 1 年生）
	【文化交流】新潟県立海洋高等学校『実習船海洋丸』（国際部有料講座）
	ウラジオストク日本語スピーチコンテスト
	後期定期試験・成績評価（海洋学部 1 年生）
	4 学期期末試験・卒業式（リツエイ）
6 月	日本の仏教美術講座実施（於：極東連邦大学、日本センター）
	キモノショー
	後期定期試験・成績評価（国際部有料講座）
	授業終了・離任

2. 赴任校の概要

大学名	(露) Федеральное государственное бюджетное образовательное учреждение высшего образования "Морской Государственный Университет имени адмирала Г.Н.Невельского" (МГУ) / Управление Международной Деятельности (УМД) (英) Russian Federation Ministry of Transport Maritime State University named after adm. G.I. Nevelskoy (MSUN) / Department of International Affairs (日) ネヴェリスコイ提督記念海洋国立大学
学長名	(露) Буров Денис Викторович (英) Burov Denis Viktorovich
所在地	(露) 690059 Россия, г.Владивосток, ул.Верхнепортовая 50а (英) 50a Verkhneportovaya st. Vladivostok, 690059 Russia
担当者 連絡先	(露) Смирнов Сергей Маратович (英) Smirnov Sergey Maratovich Tel : +7(423)249-77-42
日本語 コース①	【国際部日本語有料講座】開設年度 2002 年 (9 月) ○所属 (露) Центр Международного Языкового Образования (ЦМЯО) (英) International Language Education Center (日) 国際言語教育センター ○責任者 (露) Василенко Надежда Алексеевна (英) Vasilenko Nadezhda Alekseevna ○概略 3 年制で履修項目は文法・漢字と会話。日本人教師は会話を担当。ロシア人教師と授業時間を等分に分け実施。
日本語 コース②	【海洋学部日本語選択講座】開設年度 2015 年 (2016 年 2 月) ○所属 (露) Кафедра Морского Профессионального Английского Языка (英) Maritime English Department (日) 海洋学部英語科 ○責任者 (露) Алексей Стрелков Юрьевич (英) Alexey Strelkov Yuryevich ○概略 航海学科(СВФ)1 年生後期のみ開講の選択講座で、航海実習参加希望者が主対象。授業時間はクラス別と全クラス合同の 2 種類あり、すべてを日本人教師が担当。

○日本語履修生数およびレベル

海洋大学生対象の授業

学年	所属	コマ数	人数	選択率	期間	レベル
1 年生	国際部有料講座	120 分×2 コマ／週	7		通年	初級
1 年生	海洋学部 CBΦ 0111	90 分×1 コマ／週	8	28.5%	後期	ゼロ初級
1 年生	海洋学部 CBΦ 0112	90 分×1 コマ／週	12	44.4%	後期	ゼロ初級
1 年生	海洋学部 CBΦ 0113	90 分×1 コマ／週	16	59.2%	後期	ゼロ初級
1 年生	海洋学部 CBΦ 0114	90 分×1 コマ／週	13	50.0%	後期	ゼロ初級
1 年生	海洋学部 CBΦ 0115	90 分×1 コマ／週	21	77.7%	後期	ゼロ初級
1 年生	海洋学部 CBΦ 0116	90 分×1 コマ／週	10	38.4%	後期	ゼロ初級

※1 年生 CBΦ 在籍 161 名中 80 名が日本語履修（選択率 49.6%。前年度は 71 名で 48.9%）

海洋大学と日本センター日本語講座受講生との合同講座（会話クラブ）

有志	合同	120 分×1 コマ／週	8	通年	中・上級
----	----	--------------	---	----	------

○日本語教師

ロシア人教師 3 名（国際部 1 名、リツェイ 2 名）、日本人教師 1 名

○日本語履修生の卒業後の進路

昨年度までの国際部有料講座の卒業生のうち、2 名が日系の旅行会社（H.I.S.）に在職中。残りの者は日本語とは特に関係なく主専攻を生かして就職している。海洋学部生については乗組員としてロシア、日本（商船三井）、韓国などの海運会社に就職する者が多い。

3. 日本語教育業務

○学年・年間のシラバス

学年	国際部有料講座 1 年生
Can-Do 日本人教師 担当分	【前期】自己紹介し合える（家族についても） 一日の過ごし方や趣味や特技・好き嫌いを尋ね答えられる 【後期】大学の案内ができる、町の紹介が簡単にできる 日本語で手紙が書ける（自己紹介と簡単な町の紹介）
使用教材	自作教材、『にほんごこれだけ 1』、『にほんご発音アクティビティ』 『Shadowing 日本語を話そう！初～中級編』（会話） 『みんなの日本語・初級 1』（文法・漢字）
評価方法	定期試験（4 段階評価）
活動方法	ロシア人教師が文法・漢字を、日本人教師が会話をそれぞれ担当。 日本人教師授業の通年目標を『5 月来訪の海洋高等学校の生徒と日本語で交流する』として学生に発表、教材は達成に向けて必要な内容を吟味しながら扱うこととした。成績評価は 4 段階評価。前期試験は口頭（モノローグ 1 問、談話 2 問）のみ、後期試験は口頭（談話 4 問）と手紙の執筆。 前期は自己紹介ができることと相手の周辺事項（家族や趣味、好き嫌い）を質問し合えることを通過点とし、後期は前期の既習事項を復習しながら町の紹介が簡

	単にできることを重視し、海洋高校の生徒と一緒に町を歩くときのために備えた。海洋高校との交流後、学生が感じた「日本人の話した言葉が分かりにくかった」、「私たちが話した言葉が伝わらなかった」反省を生かした取り組みに着手。語彙以外に表現やイントネーションなど学生が気づいた不足点を補うべく、実践的な練習法としてシャドーイングを提示し、授業内での活動を始めた。
--	--

学年	海洋学部 1 年生 (0111-0116)
Can-Do	【文字】 ひらがなが読める・書ける 【会話】 自己紹介し合える (家族についても)、場所について尋ね答えられる
使用教材	自作教材、『TRY! START にほんご はじめよう』
評価方法	出席、定期試験 (ザチョット)
活動方法	航海実習に参加を希望する学生を主たるターゲットとして開講の後期選択授業。授業はクラス別で隔週、全クラス合同で隔週それぞれ開講され、全授業を日本人教師が担当。到達目標を『日本へ寄港したときに日本人と日本語で簡単にコミュニケーションが取れる』とした。成績評価はクラス別授業のみを対象とし、形式は合否判定 (ザチョット)。ひらがな 20%と口頭 80% (モノログ 1 問、対話 1 問、談話 1 問)。 クラス別授業では前半 4 回を挨拶とひらがなの習得 (導入は川口式 S/W、その後は上記教材を使用し撥音・促音・拗音の違いを重視)、後半 2 回を『場所を尋ねるロールプレイ』とカタカナ (自身の名前が書ける) とした。 尚、全クラス合同授業の内容は以下の通り 【第 1 回】 日本語授業ガイダンス 【第 2 回】 書道講座 (歴史と『元気』、『海洋』、『勝利』より選択し体験) 【第 3 回】 震災学習 (東日本大震災と『花は咲く』の話、折り紙で花を作る) 【第 4・5 回】 漢字の歴史と仕組み (絵から象形文字、形成文字へ) 【第 6 回】 日本語で歌おう (『幸せなら手をたたこう』の指導) 【第 7 回】 クラス対抗合唱コンクール (審査は学生全員と)

学年	日本センター日本語講座受講生との合同講座 (有志)
Can-Do	日本語で雑談できる、意見を言い合える、フォローし合える 相手に合わせて手順を説明できる
使用教材	自作教材、ニュース映像 (出典: テレ朝 news、日テレ NEWS24)
活動方法	通称『海洋大学会話クラブ』。日本センターでの日本語講座に日本人担当の授業が無いことから、ネイティブの授業を望む中・上級の海洋大学関係者や日本センター日本語受講生を対象に開講。参加者は海洋大学卒業生、日本語教師や日本語ガイド、日系企業勤務など仕事で日本語を使う人から単に日本語会話が好きな人など参加者層は多岐に渡る。

	参加者が日本語でディスカッションする過程で新しい知識を創造し参加者同士で共有するのが目的のため、日本語教師はディスカッションのテーマを提示し、内容の整理に徹している。テーマに関しては日本のニュース番組の特集を利用し、テーマは参加者が好みそうな『社会』、『文化』、『季節』、『企業・IT』、『家族・健康』より選定。「思わず友達に話してみたいくなるような」鮮度や感度の高い素材提供を心掛けている。尚、参加者の習得レベルに差があるため、日本語習得はテーマに関わる最低限度の語彙や表現に止めニュース映像やディスカッションの内容理解に注力した。 応用編として在留邦人と交流でき地域に貢献できる活動を展開した 【ピロシキ料理教室】在留邦人宅にて 【国際アイスラン日本語ボランティア】登録補助と会場案内を担当
--	---

○個人指導／課外指導

- ・海洋大学附属リツェイへの日本語授業：専属のロシア人教員の補助として、授業（日本語と日本文化理解）を担当した。日本語授業の詳細は以下の通り。

学年	コマ数	人数	習得目標	教材
5	90 分×1 コマ／週・通年	18	カタカナ	かな練習帳、ひろこさんの日本語
6 a	90 分×1 コマ／週・通年	18	4 課まで	みんなの日本語初級 1
6 b	90 分×1 コマ／週・通年	18	4 課まで	みんなの日本語初級 1
7 a	90 分×1 コマ／週・通年	18	8 課まで	みんなの日本語初級 1
7 b	90 分×1 コマ／週・通年	18	8 課まで	みんなの日本語初級 1
8	90 分×1 コマ／週・通年	18	9 課まで	みんなの日本語初級 1

※2 月は全科目一斉『体験学習月間』に設定され、日本語授業も同月に文化体験をまとめた
実施内容：豆まき、書道、かるた遊び（東京学芸大学大学院生による特別授業内）

- ・日本センター日本語講座の指導：日本センターからの依頼で 4 年生（中上級）の講座の指導補助を月 3 回程度（各回 60 分）ボランティアで実施
- ・子ども日本語教室での日本語授業：日本センターからの紹介で、ABC ミールセンター実施の子ども日本語教室にて授業（90 分×3 コマ／隔週）を担当
- ・日本語ガイド講座：沿海地方行政観光情報センターと日本センター共催でロシア人ガイドの技量向上のため実施。180 分×6 日間。コースデザインと講師を担当

○反省点と今後の展望

【国際部有料講座】1 年生：在籍者 7 名全員が揃うことがあまりなかった。有料講座の性質上、本専攻の授業が立て込んでくると有料講座の欠席者が多くなる傾向にある（ロシア人教師担当分も同様）。そこで、日本人教師の会話授業については学生に通年と各期の到達目標を事前に明確にし、授業も 1 コマ（120 分）で完結する内容を行うようにした。ロシア人教師の文法授業は学生の出席率や習得度合いに関係なく進める方法なので、後期の会話授業は文法授

業の既習事項を積極的に盛り込み、時として文法授業の復習を会話の授業で行ってしまったのが反省点である。今後の会話授業について、新 2 年生は聴いて話すことの大切さに学生が気づいたことを踏まえ、引き続きシャドーイングと聴解に取り組みイントネーションと即答の技術の向上を図ってほしい。また、新 1 年生は 5 月の海洋高校の来訪に合わせて目標を明確にした上で、日本語で伝える難しさと伝わる楽しさを気づかせてほしい。

【海洋学部】1 年生：昨年度よりコマ数が増えて、クラス別授業の他に全クラス合同授業が新たに設定された。ただし、授業選択者（80 名）が入れる教室がなく床に座りながら受講する者が出てくるなど、全クラス合同授業の学習環境は決して良い条件ではなかった。そこで、日本文化体験や日本語周辺の講義とし合同授業は成績評価外とした。クラス別授業についてはひらがなの習得（五十音表の完全理解）と談話につながる会話指導に注力。ひらがな S/W 指導を最低限度とし間接法での指導時間を増やし、会話は具体的な状況下のロールプレイを取り入れることで学生の心理的ハードルを下げ、履修後も自主学習したいと思ってもらえるよう心掛けた。定期試験の結果を見る限り、ひらがなも会話も昨年度よりも力がついているように思われる。次年度も同形態（クラス別と全クラス合同授業）で開講される場合は今年度のように文化体験を織り交ぜて授業内容にメリハリをつけるのが望ましいと思われる。

【合同講座（会話クラブ）】：在留邦人への料理教室や日本語ボランティアなど、教室の外への活動が展開される理想的な形となった。ただし、初級者（とりわけ海洋大学生）の取り組みができていないのが最大の反省点である。海洋大学生にとってこの会話クラブは難しくハードな講座と映ってしまっているため、次年度は新しい風を吹かせ門戸を広げてほしい。

○現地での日本語教育について

ウラジオストクの日本語教育機関の教育技能向上と情報交換を主たる目的とし、日本センター内に立ち上げた「日本語教師サークル」が 2 年目を迎えたが、活動内容の紹介や意見交換会としての定例会を 1 回、教師セミナーを 1 回実施するに止まった。国際交流基金や総領事館などに意見を仰ぎながら今後も積極的な活動に努めてほしい。



国際部有料講座 1 年生
(海洋国立大学フェイスブックページより)



海洋学部 1 年生（全クラス合同授業）
(海洋国立大学フェイスブックページより)

4. その他の業務

- ①極東・東シベリア日本語弁論大会 (10 月) : 太平洋国立大学と在ハバロフスク総領事館共催で行われ、審査員として参加。教師セミナーで発表
- ②ジャパン・フェスティバル (11 月) : 在ウラジオストク総領事館主催で行われ、フードコートにて餅つき・試飲イベントの実施
- ③文部科学省国費留学生試験 (3 月) : 在ウラジオストク総領事館で留学生試験が行われ、試験監督および面接官として参加
- ④日本センター日本語スピーチコンテスト (4 月) : ウラジオストク日本センター主催で行われ、審査員として参加した
- ⑤第 18 回シベリア地域日本語弁論大会 (4 月) : イルクーツク国立大学主催で行われ、質問員として参加。教師セミナーで発表
- ⑥第 26 回ウラジオストク日本語スピーチコンテスト (5 月) : 富山県と在ウラジオストク総領事館共催で行われ、質問員として参加

5. 青年交流

○青年交流事業

交流相手先	東京学芸大学大学院生
実施月と人数	2019 年 2 月 25 日・26 日 (4 名)
交流受入先	リツェイ、合同講座 (会話クラブ)
計画実施	日本人教師が主体
活動方法	2018 年 3 月に実施した同大学地理学研究室のプログラムに参加した大学院生が学内で有志を募り再来訪。昨年度同様にリツェイでの授業体験と会話クラブ参加をプログラムとする。 リツェイでは『かるた遊びに挑戦!』を実施。かるた遊びの由緒説明から取り札と読み札の作成、班ごとにカルタ遊びを行う。ロシア人教師が通訳。 会話クラブでは『ロシアに来る前と来た後での印象の違い』、『日本へ行く前と行った後での印象の違い』を発表し合った。

交流相手先	新潟県立海洋高等学校『海洋丸』
実施月と人数	2019 年 5 月 11 日～14 日 (生徒 20 名、引率 2 名ほか)
交流受入先	国際部有料講座 1 年生
計画実施	国際部が主体、事前交流と市内散策交流は日本人教師が主体
活動方法	海洋大学との定期的な交流活動で、今年で 23 回目。滞在プログラムは国際部が計画し実施する。日本人教師の役割は国際部有料講座の学生との交流方法の考案と実践。昨年度の反省を踏まえて、今年度は事前交流 (手紙の交換) を実施。2 月に海洋高校より英語で手紙をもらい、4 月に国際部有料講座 1 年生より日本語で手紙を返した。また、市内観光時の一部や海洋丸訪船時、さよならパーティーに国際部有料講座の学生を帯同・参加させ、海洋高校の生徒と交流できる

	時間を大幅に拡大させた。 他、日本人教師の役割は以下の通り。 ・海洋高校とのメールのやり取りのフォロー（日程の翻訳など） ・海洋丸船長と機関長の総領事館表敬訪問のフォロー （総領事館と日時の打ち合わせ、訪問当日のアテンド） ・その他、滞在中海洋高校担当と国際部担当を結ぶ役割がある
--	--



東京学芸大学大学院生による特別授業
（海洋国立大学フェイスブックページより）



国際アイスラン日本語ボランティア
（海洋国立大学フェイスブックページより）

○文化交流・体験事業

- ①旧正月を祝う会（1月）：国際部主催による留学生イベント。中国、ベトナム、韓国の学生の代表が正月文化のプレゼンと郷土料理を披露。国際部有料講座学生が日本代表として参加。
- ②リツェイ日本文化体験月間（2月）：豆まき、書道、かるた遊び（東京学芸大学大学院生による特別授業）を実施
- ③震災学習（3月）：東日本大震災をテーマに命の尊さと復興への想いを学ぶ。国際部有料講座と海洋学部1年生は震災の概略を学んだ後に復興チャリティーソングの『花は咲く』を聴き感想を述べ合い、折り紙でチューリップを作り大切な人に贈った。合同講座（会話クラブ）では追悼式の遺族代表の式辞を聴き、震災を乗り越えて未来を拓く決意について考えた。

6. 任地での生活事情

○日常生活

- ・電気：停電は全くなかった。エレベーターは原則使用不可。
- ・水：やや白濁で飲用はできないが、米を研いだり洗顔するなど生活に支障は来さない程度。セントラルヒーティングの時期前後に数時間程度の断水があり、復旧後は赤茶色の水が流れる。
- ・温水：年中利用可。ただし、館内の設備工事時とセントラルヒーティングの終了後の点検期間（今年度は5月下旬から6月中旬にかけての3週間）は市からの給湯が止まり、浴室備え付けの小型ボイラーに切り替える必要あり。

- ・**生活必需品**：大学から徒歩 20 分の大型スーパーをよく利用していた。食材はもちろん、衛生用品やノート・コピー用紙なども比較的安価で購入可能。ホワイトボード用のマーカーとプリンターのトナーは本屋や電化製品店で別途購入していた。
- ・**衣類**：大体のものは入手可能。市内中心部のショッピングモールは値段が高めだが、アウトレット品専用のコーナを設置している店もある。郊外の中国人市場やショッピングセンターでも入手可能。
- ・**食べ物**：基本的には米を炊いて簡単に調理できるものか惣菜を購入し食べていた。冬場は野菜や果物は品薄になりがちで値段も上昇する。冬以外の週末は中央市場で青空市が開かれ、安くはないが新鮮な食材（野菜・果物・肉・魚など）が手に入る。中国や韓国、日本産の調味料や加工品も容易に手に入るので、食生活には全く困らなかった。また、外食については外国人観光客の増加傾向の影響を受け、この 1 年で各国料理のおしゃれなカフェがさらに増えた。

○住居

寮は大学内の 10 号棟の 5 階。10 号棟にはロシア人職員やロシア人学生、留学生用住居のほか、国際本部事務所やカフェドラ、教室、売店もある。日本人教師の部屋がある 5 階は、ロシア人の短期滞在者や外国人教師用の専用フロアになっている。共同キッチンには外国人教師専用の洗濯機も備え付けられている。日本人教師の部屋は 2 部屋あり、10 日に 1 回の頻度でシーツ・タオル交換や室内清掃もある。

○交通

大学から市内中心部の中央広場へはバスで 10 分弱、徒歩で 25 分ほど。バス運賃は市内均一で 23 ルーブル。タクシーを利用する場合は配車アプリを原則利用する。大学から市内中心部までは 140 ルーブル程度。ただし、通勤時間帯は慢性的に渋滞し、これに降雪が重なると深刻な交通障害が発生してしまう。

○物価

経済制裁の影響で全般的に物価が上昇している。この春より乳製品が 10%ほど値上げ。

○治安状況

4 月以降、日系企業が多く入るフレッシュプラザ（ビジネスセンター）など市内中心部で爆破予告が断続的に続く。総領事館よりスリや置き引きの注意喚起あり。

7. その他

前年度同様に国際部の事務スタッフと意思疎通を密に図ることで、仕事・生活両面で大きなトラブルもなく 1 年を過ごすことができた。また、適度にジョギングするなど健康管理にも注意できたからか、1 年を通して病気やケガをすることもなかった。

8. 終わりに

海洋大学における日本語教育は大学のほかにリツエイが担っており、子どもたちから社会人まで今年度は 200 名ほどが海洋大学のキャンパスで日本語を履修した。日本語教育としての専門性は決して高くはないが、他校にはない幅広い学習者が集う「海洋大学の日本語教育」の独自性を生かして、文化紹介や交流イベントを一丸となって展開することが期待される。